

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第252号

発行者
茨城県学校長会
会長 大塚 昌弘
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

新年度に備えて — 我が校の課題 — 危機管理体制の整備と学校安全の確保



目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- (特集1) 新年度に備えて
我が校の課題……………2
- 課題「学校の新たな可能性
を求める学校改革」……………5
- (特集2) 危機管理体制の
整備と学校安全の確保……………6
- 特別寄稿「未来を見据えた
学校づくり」……………8
- ブロック研修会から……………8
- 提言二題……………9
- ひばり……………10
- 読んでみませんか……………11
- 梅のかおり……………12
- 市町村教育委員会と学校長会……………14

「勢いのある学校」を 目指して

筑西・下館南中 柴山 勝利

この二年間、コロナ禍の中で、学校はいろいろな活動や行事が制限されてきました。そんな状況下でも、できる限り生徒一人一人が生きていきと輝ける機会や場の提供に心がけ、生徒は大いに力を発揮してくれました。陸上部・水泳部・駅伝部・柔道部吹奏楽部の関東や全国大会出場。運動会での伝統のチームソーラン。文化祭での有志発表や演劇部の発表会。集会行事や修学旅行・宿泊学習など。生徒はいつも明るく全力で取り組んでくれました。心から感謝です。

特別寄稿



未来を見据えた学校づくり

錫田市教育委員会教育長

安原 優

私たちを取り巻く社会は、グローバル化や急速な情報化、技術革新により加速度的に変化してきています。例えば、スマートフォンが登場により社会全体がデジタルシフトに進むなど、既存の延長線上になかった変化が起こるのが、まさに「将来の変化を予測するのが困難な時代」と言われる所以と考えます。これからの新しい時代を生きていく子供たちに、学校教育は何を準備しなければならぬか、私たち教育に携わる者は誰もが抱えている課題です。

錫田市は、『錫田市公立学校施設再編計画（平成二四年）』に基づき、小学校の統合を進めています。これまでに錫田北中及び錫田南中学区に二つの小学校が平成二八年、令和元年にそれぞれ開校し、令和四年四月には大洋中学区の四小学校が統合して、錫田市立大洋小学校が開校となります。令和七年には旭中学区の四小学校が統合する計画です。統合前二〇校あった小学校は四校に再編されます。少子高齢化という社会の避けがたい波により統合計画を進めているところですが、統合前の小学校の歴史を振り返ると、どの学校もこれまでに校名改称や併合等を繰り返して現在に至っています。これは、時代のニーズに合わせて学校がその姿や内容を変えてきた証であると考えます。

現在の錫田市内小中学校の様子を見ると、子供たちは一人一台のタブレットを持ち、校内の全域Wi-Fi環境のもと、大型モニターを使いながら授業が進められています。コロナ禍で一気に加速した感がありますが、まさに未来を見据えた教育が行っているのを感じます。開校した小学校やこれから開校を迎える小学校は、機能性と学びやすさを兼ね備えた造りをしていきます。間取りの工夫や設備・空調の充実など、未来を見据えた教育環境を目指しています。一方で小学校統合により地域のコミュニティが希薄になってしまふことも懸念されています。小学校は、長年にわたって地域のシンボリック的存在となってきました。それは、これからも継続していくことが必要です。

明治期の学制公布から一四〇年以上の歴史をもつ我が国及び本県の教育は、大きな成果を上げ、蓄積を積み上げてきました。これは学校長会をはじめ諸先輩方が将来を見据えて、新たな学校文化を形成してきた成果に他なりません。この時期に小学校の統合を進めていることの意味をしつかりと理解し、縦横の連携を図りながら、これからの時代にふさわしい新たな学校づくりに取り組んでいく所存です。

ブロック研修会から

創意と活力に満ちた学校経営
働き方改革を踏まえて

行方・北浦小
武田 民弥

県東ブロック学校長研修会は、一〇月二四日（木）に行方市文化会館で開催されました。県東地区の小中学校長六九名が「創意と活力に満ちた学校経営」のテーマのもと、講師として（株）セルフ・インブルー代表取締役 和田 勉様、来賓として鹿行教育事務所長 関根康裕様をお招きし研修を行いました。

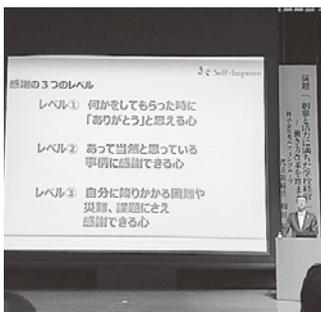
講演では「組織の活性化に必要なこととは？」「校長の役割とは？」「学校の働き方改革のキーマンは教頭先生」等について話され、校長自身が前向きに楽しく取り組んでいく必要性を熱く語っていただきました。

参加者からは「今までと違う視点で学校経営を考えることができた。」「パワーをいただいた。」「ポジティブ思考で様々な課題に正対していきたい。」等の意見が寄せられました。講師選定には「管理職として多面的・多角的なものの方・考え方が必要なので社会人講師が良い。」という意見をたくさんいただいたとき、今後の運営に活かしていきたいと考えます。

その後、予定していた分科会（テーマ「感染症予防のため各市校長会」こと、これまで当たり前として取り組んできたこと

を見直し、精選・削減・変更の視点から、これからの勤務の在り方や教育活動について協議しました。小学校分科会では効果を上げた取組として「学校行事の精選・効率化」「日課表の見直し」「ICT機器等の活用」「保護者地域からの支援・協力」等、中学校分科会では、小学校部会で出た以外に、「部活動運営の工夫・改善」「学期制等の導入」「定期テストの工夫」「複数担任制による業務分担」等についての報告がありました。

また、今後については「オンラインを活用した研修の推進」「行政・外部機関等の連携・協力の推進」「各協議会等の紙面決議」「県市等研修会の削減・縮小」等、縮小・改善、効率化を図る取組への報告がありました。結びに、このような状況の中、県東ブロック学校長研修会を全校長が一室に会して実施できたことに講師・来賓はもとより参加された校長先生方、会場を提供くださった行方市教育委員会様に心より感謝申し上げます。



演題「創意と活力に満ちた学校経営」

提言二題

新スタイルのPTA活動



PTA 会長
美玉市PTA
小美玉市PTA
連絡協議会
島田 広幸

める研修会が望ましいと思いがすが、コロナ禍のため、試行錯誤しながら実施しました。これからのPTA活動は、新型コロナウイルスを意識しながら、今までとは違った『新しいスタイル』で知恵を出し合い工夫しながら行っていく必要があると思います。

令和三年度、小美玉市PTA連絡協議会の会長を務めさせていただいております島田広幸と申します。また、日頃より校長先生をはじめ諸先生方にはPTA活動に対し、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

本P連は、公立幼稚園三園、小学校八校、義務教育学校一校、中学校三校、園児・児童生徒数約三七〇〇名の保護者及び教職員で構成され、主な主催事業に指導者研修会があります。

しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大し、令和二年度は中止、今年度は縮小した形で行われました。指導者研修会は、今までのような一堂に会し開催する方法を改め、オンライン形式で開催いたしました。本来なら、顔と顔を合わせてディスカッションをしながら交流を深

また、新型コロナウイルスが終息した後、果たして以前の活動に戻るのかどうか分からないのが実情だと思います。なぜなら、PTA会長をはじめ役員は一年〜二年で交代になることが多いため、総会や指導者研修会等の事業を経験しないまま交代となり、新役員になった方は活動をどう進めていけばよいのか、かつ今までのやり方が通用しなくなっているため、活動に関する不安が大きいと思います。

しかし、このピンチをチャンスと捉え、コロナ禍で中止した従来の事業の進め方や必要性、改善点等について、役員や先生方、会員の皆さんで話し合い見直しを図ったうえで、従来の形の良いところは継承しながら、『新しいスタイルのPTA活動』を模索し、会員が子供たちのために必要な活動であると認識し考えていく必要があると

思います。簡単にはいかないと思いますが、役員と先生方が連携し会員に働きかけをしていくことが大切だと思います。コロナ禍で、今まで当たり前に行ってきた活動ができなくなってきたため、集合型や対面方式の活動だけではなく、分散型やオンライン方式など『新しいスタイル』にシフトしていくことが求められていると思います。子供たちのための活動なのかどうかを常に意識しながら、今後もPTA活動に努めていきたいと思えます。

小さな流れも

大河となる



立市立PTA
小・中学校
連合会会長
草地 学

コロナ禍の中、子供たちのために学校運営にご尽力いただいている学校長を始め、すべての先生に保護者を代表して感謝を申し上げます。

私が会長を務めます日立市立小・中学校PTA連合会（以下、市P連）は、日立市立の四〇校で組織する連合会です。全国的

には市町村地区連は連絡協議会が多く、連合会として組織する団体は非常に少ないです。日立市では四つの委員会を設け、子供たちや学校、家庭や社会教育をテーマに研修会や意見交換などを行い、各校のPTAの活動の一助になる活動を行っております。

令和二年度はコロナ禍により、今まで行った活動ができない中、市内全校に新型コロナウイルスによる問題点のアンケート調査を行いました。アンケート結果は、教育委員会や校長会に報告を行い情報の一元化を図り、様々な対応を行政・学校・保護者が手を取りあつて取り組むことができました。

その中でも大きな問題は子供たちの学校の思い出が減っていることでした。臨時休校や運動会・宿泊学習・修学旅行などがコロナ禍により、中止や代替企画の実施となり思い出が減り、卒業アルバムのページも埋まらないという話も聞きました。各校PTAが、独自に子供たちが楽しめる企画作りを行うには時間も費用もないため、市P連が中心になり進めることができな

いかと考えました。そして生まれたのが各校オリ

ジナルの動画を創るプロジェクト「みんなの学校」です。市P連をベースに撮影や編集などを行う運営を取りまとめ、各校では動画の内容を考えることでプロジェクトに参加しやすさを作りました。実施にあたっては、日立市校長会のバックアップと、コロナ禍に伴う授業時間の確保が大変な中、各校の撮影に際し多くの教師の皆様のご協力をいただきました。動画作成の趣旨に賛同し、オープニングなどのイラストは「いはらき国体のマスケット」の生みの親であるイラストレーターのミウラナオコ氏、ナレーションには茨城放送（IBS）でフリーアナウンサーとして活躍されているたかとりじゅん氏にプロフェッショナルなチャラもいただくことができました。そして、日立市教育委員会の協力により令和二年度小中学校の卒業生三〇〇〇人にこの動画が入ったDVDを卒業記念品として送ることができました。始めは小さなものですが、人が集まり思いを共有することで小さな流れも大河となりました。この活動で改めて、子供のためであればオトナのチャラが集まることで頑張れることを学びました。

ひばり



画・「命のぬくもり」
常陸太田・金砂郷小 武石 洋

校章への思い

笠間・宍戸小
小松崎 智史

本校の校章には、徳川家の家紋で有名な「葵」の葉が用いられている。徳川家は丸に三つ葉葵だが、本校は正八角形に三つ葉葵。「角葵（かくあおい）」と呼ばれる。もともとこの場所には水戸徳川家から拝領した松平宍戸藩の領地であり、宍戸城跡地に本校は建てられている。校章のデザインは松平家の家紋であったが、宍戸小学校が校章を定める際に、松平家の承諾を得てその家紋を校章とした。以

来、子供たちの帽子にはこの『角葵』が燦然と輝いている。水戸弘道館への社会科見学や日光東照宮への遠足の際には、子供たちは帽子の校章と似た徳川家の家紋を目にし、実に感慨深い様子であった。また、『あおい』を頭文字にした「あいさつ」「思いやり」「一生懸命」は子供たちの生活規範の礎として、小学校六年間はもとより、人として生きていくうえでずっと大切にしている言葉となっている。宍戸藩という江戸時代から続く長き歴史とこの地で活躍した先人への思いは、校章とともにこれからも受け継がれていく。

第一三共

ひたちなか・前渡小
海野 雄一

あつという間に、教員生活のファイナルステージ。人生最後のラストボーナス。子供ファースト、子供「第一」と考え、保護者はもちろん、地域と連携・協働での教育活動。すなわち、学校・家庭・地域の「三共」である。

予測不可能な社会の到来といわれるが、学校現場も多様化・複雑化の昨今、地域の教育力にもさらなる協力や支援をいただく時が来た。個別最適な学びをはじめ、コロナ禍をきっかけに急加速したICT活用、教職員の働き方改革等、学校現場の課題は山積している。「子供は地域の宝」「学校は地域の財産」といわれるように、学校を核として地域の活性化も叫ばれている。我が教員人生を振り返ってみれば、学校オンリーの人生であった。来春よりセカンドステージを迎えられることに感謝し、微力ではあるが、「三共」である地域の一員として学校を支援し、地域貢献できる持続可能な豊かな人生を、一步一步ゆつくりと、楽しみながら歩んでいきたい。

松陰神社再訪記

日立・諏訪小
荒蒔 克一郎

松陰神社に行った。吉田松陰を祀る世田谷区にある神社だ。約三十五年ぶりの再訪である。教員になるとは思ってもいなかった当時の自分には、狂おしいほど純化された精神をもつ思想家としての松陰に興味があったものだが、今回、教育者としての松陰に大きく心が動いた。

松陰は、「人、賢愚ありといえども各々、一、二の才能なきはなし。備わらんことを一人に求むるなかれ。小過を以て人を棄てては、大才は決して得るべからず。」とその著書で語る。ひたすら人の良いところを見つけて育てることの大切さを説く。また、松下村塾では、松陰の講義は全体のわずか五%ほどだったとのこと。大部分は塾生による講義や討論などであったという。まさに「師弟アクティブラーニング」。現在求められている教育に直結する。松陰の偉大さを改めて知った。人を育てるといふ本義は一緒。学ぶべきことは多い。帰路、夕陽に染まる世田谷線に揺られながら、もうちょっと調べてみようと思った。

地域とともに

鹿嶋・鉢形小
太田 雄介

毎朝校門に立つと、子供たちの笑顔と元気なあいさつに活力をもらっている。すると、「この柿うめえから食ってみ」と散歩している地域の方からの頂き物。不思議と心が温まる。

鉢形小学校は、地域とともにある学校を目指し、コミュニティ・スクールを推進している。地域の子供は地域で育てることを目標に学校運営協議会では、地域の目指す子供像や、そのために何ができるかといった地域学校協働活動をテーマに熟議が行われる。すると、子供たちを中心に据えた様々な意見で、場が多いに盛り上がる。コロナ禍であっても数多くの地域の方と顔を合わせたこの一年。子供たちの学びを豊かにするために、地域人財の学校への支援は欠かせない。だからこそ、学校・保護者・地域が笑顔でつながり、スクラムを組んで、輝く未来のある子供を支えていく体制が重要であると考えます。まずは、つながること。明朝は柿をくれたおじいちゃんに、子供たちが作ったサツマイモをプレゼントしたいと思う。

自分で考える

守谷・大野小
高野 香保里

『国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい』これは、ケネディの大統領就任演説の中の一説で、私が学生時代に大変な衝撃を受けたことばです。

「国に依存するのではなく、自分が自発的に国に貢献できることを考えよ」と国民に促すとは。平和に暮らしていて、国に何かしてもらおうのが当たり前という受け身の感覚で生きていたから、この発想に目が覚める思いがしたものです。そして、戦後に民主主義を与えられた日本とは、「自由」や「民主主義」に対する理解と意識が根本的に違うのではないかとも思いました。

このケネディのことばは、自分がやりたいことややらねばならないことは、覚悟を決めて自ら道を切り拓いていく必要があることを考えさせるきっかけくれました。

とはいえ、私もまだまだ道半ば。いつも覚悟が決まらず迷っただけです。ただ一つ、「自分で考える」ことだけは、全うしようと思っています。

世代論

稲敷・あずま北小
大谷 次男

Z世代という言葉をよく耳にします。家族でテレビを見ている時にも登場し、息子や娘に尋ねても、的を射た回答が返ってこないのが、インターネットで調べてみました。

それによると、「ミレニアル」世代とも呼ばれ、一九九五年以降に生まれた人々を指す世代用語らしいです。この世代の方たちは、物心ついた頃にはPCやスマートフォンが身近にあったという特徴があります。この世代の人の特徴を表すキーワードは、多様性だそうです。また、名譽よりも、自分らしさを追いかける傾向も強いらしいです。昔CMにあった「二四時間働けますか。」の上昇志向的考え方は全く通用しないことになりました。

そして、それに対応する教育は？「一位を目指して」「優勝目指して」というフレーズは、教師側だけの意欲喚起方法だったのでしょうか。「不易と流行」という言葉があります。我々教師はいつも不易を追い求めてきたと思います。職業観も変わりつつある今、教員の多様性が問われてきていると思います。

ありがとう T君

古河・下辺見小
桑名 豊

「先生、ボク、自分の足で歩いて卒業証書をもらいたい」

教員として駆け出したあの日、六年のT君が突然私に話してきました。私はT君のいっになく真剣な面持ちに、思わず「よし、一緒に頑張ろう」と答えたことをよく覚えています。

T君は不随意運動が激しく、独歩は正直難しいと私は考えていました。しかし、弱音を一言も吐かず、黙々と訓練に励むT君を見て、彼の夢は「野球選手」だったことを思い出しました。

「野球選手になるには、歩けなくちゃ、走れなくちゃ…」頑張ったT君は、その後車椅子から卒業し、杖を握って歩き始め、卒業式では皆の見守る中、自分の足だけで歩いて卒業証書を受け取ることができました。

そんなT君も、今はこの世にいません。T君との四年間、私はT君から「教養育てる」意味をたくさん学び、それが長い教員人生の礎となりました。

まもなく退職を迎える今、墓前に語りかけようと思います。「君のおかげで教員人生を全うできたよ。T君、ありがとう。」

白壁と共に

結城・結城東中
大森 達也

今から三六年前、新採として結城中学校に配属になった。その翌年、分離して結城東中学校が誕生した。東中の外観は、白壁とモダンな作りで水戸線の利用者も魅了し、かなり有名になったのを覚えている。私自身も、あの美しい校舎で仕事ができたらと思つたものである。

光陰矢のごとし。気がつけば、令和四年度を最後に退職を迎える。教員生活の最後を、若かりし日のあこがれだった学校で迎

えることになったが…。当然ながら、白壁は汚れ、校舎のあちらこちらが壊れてきている。まるで、教員生活三六年度の自身自身の老いた姿とかぶつてきて泣けてくる。でも、学校は今でも、風雨や地震、その他の天変地異にじっと耐えながら立ち続けている。そして、本校の生徒や先生たちを守ってくれているのである。それに比べて自分はどうだろう。ややもすると、たいへんなことから逃げだそうとしてはいないか。愚痴ばかり言つてはいないか。今一度校舎と向き合い、共に頑張ろうと語り合おうと思つている。

読んでみませんか

「法隆寺を支えた木」
著者 西岡 常一
小原 二郎

発行所 NHKブックス

本書は法隆寺の修理や改修に携わった宮大工の西岡常一さんの視点から、なぜ現在までの長い年月この建築物が残ったのかその秘密に迫る内容である。

特に印象深かったのは「塔組みは、木組み 木組みは、木のくせ組 木のくせ組は、人組み 人組みは、人の心組み」という宮大工の口伝である。ねじれたり反ったりなど、その木の癖を

理解して、うまく組み合わせることで、強度のある建物を作ることができるという意味である。またこの考え方を建築に関わる全ての大工が持ち、建物の完成イメージを全員で共有することで初めて、法隆寺のような建築物が完成するという。

学校経営のキーワードでもある「学校組織マネジメント」や「ビジョンの共有」。日本古来の建築物、法隆寺の秘密から、そのヒントを得たような一冊であった。

つくばみらい・谷原小
八木 知則

働き方改革に思う



前・かすみがうら市立
下稲吉東小学校長
松信 登

も同じようなことを言っていた。(レベルは全然違うが) 現役の校長先生方、今が一番いいときです。思う存分、学校経営を楽しんでください。

「留守番電話を導入したらいかがでしょうか。」と提案したところ、「ここは学校だぞ!」と一蹴されたことがあります。私が三十歳半ばの中堅教員だった頃の出来事です。

今、働き方改革の一環として留守電の導入が進んでいます。他にも学期末短縮日課の再導入や通信表の簡素化、行事の精選等が行われています。

しかし、改革を進める中で、また新たな課題が生じてきます。留守電を設置したものの、保護者の仕事等の関係から連絡を取り合うのが夜になってしまふこともあります。

校長には大胆かつ細やかな経営手腕が求められます。既に実現した改革はコロナ禍の一過性のもので終わることなく、本質に照らし随時見直ししていくこと

が大切です。地域の方々と保護者の理解を得ながら、この学校だからこそできる改革を進めてほしいと思います。

このことは、私の教員人生、学校経営の反省を踏まえた願いです。教職員のワークライフバランスの確保のため、地域や保護者と共に進める教育のため、そして、何より児童生徒の健全な成長のために。

理科・生物教師として



前・つくばみらい市立
富士見ヶ丘小学校長
石塚 武彦

「みんなに自然のすばらしさを教えたくて理科の教師になりました」と、新採の中学校での新任式の時のあいさつでした。特に自然観察などの野外観察を通じた理科教育に力を入れて取り組んできました。

中学校では、自然観察、地層の現地観察、科学部での昆虫調査などが心に残っています。

小学校では、季節に応じた自然観察や総合的な学習における生物調査を通して、子供たちの科学教育に当たってきました。今は市の教育支援センターで子供たちと時間をみつけては

バードウォッチングや自然観察などを楽しんでいきます。時折、県環境アドバイザーや筑波実験植物園の昆虫観察会などの講師としても取り組んでいます。

また、つくばみらい市は絶滅危惧種や貴重な生物が多く見られる地域です。ただ、生物調査はこれまでほとんど行われていません。これから五年程かけて、植物・昆虫・野鳥の調査をして、理科の野外学習や総合的な学習に活用できるデジタル資料を作成しようと考えています。

これからは生物教師としてさらに力をつけていきたいと思っています。

自分の花を咲かせよう



前・桜川市立
桃山学園小学校長
仁平 康則

退職してから早いもので、半年が過ぎた。現在は市の社会教育指導員として、週二日の勤務。この数か月、休みの日は何をしようか考えていたところ、退職した同期の仲間や先輩方からゴルフの誘いを頂いた。断る理由もなく参加したが、スコアは惨憺たるものだった。自分の不甲斐なさや少しの悔しさもあり、

練習場に通うようになった。ただ漠然とやっても仕方がないと思いい、スマートフォンで予約したアプリに、たまに出る「ナイスショット」をしたときの様子をメモしておこうと思った。

アプリを立ち上げると、以前メモした内容が目に残った。「他人の短所が目につきすぎる人は、経営者には向いていない。長所を効果的に発揮させるのが自分の仕事だと考える人が、有能な経営者になれる。」初めて校長になった頃に、不安な思いですがるように読んだ本の言葉がメモしたものであった。

最後の勤務校で、グラウンドデザインの中に「自分の花を咲かせよう」という合言葉を掲げた。「自分のよさを見つけ、周りの人のために何ができるか考えよう。」みんながその思いで、一つになれたように感じた。

身も心も笑顔で元気



前・八千代町立
西豊田小学校長
荒巻 英栄

三月に、母校である西豊田小学校において定年を迎え、現在は、再任用で小学校理科教科担任の専科教員として、二つの

小学校に毎日勤務しています。今年度も新型コロナウイルスの影響で様々な学校行事等が中止・延期される中、「新しい時代における子供たちの学びの姿を目指した理科の授業づくり」に日々取り組んでいます。

ところが、夏季休業後はタブレット端末を利用したオンライン学習期間が続きました。画面越しの子供に対して「どのよう」に指導したら分かりやすく伝わるのか」が大きな課題でした。

十月からやっと対面授業が再開し、子供たちの笑顔が教室や理科室に戻り、冷えつつあった私の心も体も元気になっているのを強く感じています。

振り返ると、校長の時には職員や保護者・地域の皆さんのお陰で円滑に学校運営ができたといえます。今は、少しでも学校のお役に立てれば有り難いという思いで一杯です。今の自分を奮い立たせてくれるのは、働き方改革への貢献と理科の学力向上です。退職後は自分の好きなことをやろうと思っていたのが、結局、小学校での理科授業だったと改めて気付きました。



市町村教育委員会と学校長会

北 県

常陸太田市教育委員会との連携

常陸太田・郡戸小
榊 雅彦

常陸太田市学校長会は、小学校十二校、中学校七校の計十九校で構成されている。令和四年度からは、六つの小学校が統合され、金砂郷小、峰山小が開校し、計十五校となる。

毎月の定例研修会では、市教育長、教育部長、総務課長、指導室長から指導・助言等を受け、市教育委員会と連携し、学校教育の充実に努めている。

一 九年間の学びを見通した教育活動の推進

本市の重点目標となつて「郷土を愛し未来を拓く人づくり」のもと、九年間の学びを見通した「ふるさと郷育」を推進している。今年度は、小中連絡協議会等を開催し、中学校区「ひと、もの、こと、自然等」の特色を整理し、実践発表等へとつなげていく。今後三年間で「ふるさと郷育」の継承と「ふるさと常陸太田の未来」につい

て提案していく計画である。

二 GIGAスクール構想による教育の情報化の推進

今年度から、コロナ禍の影響もあり、市内の全ての小中学生にタブレットPCが配付された。各教科でのオンライン授業や学習活動で活用されるなど、教育の情報化が急速に進んでいる。本市では、各校にICT支援員が配置され、ICT機器の活用支援、教職員のICT活用スキルの向上を図るための研修等に取り組んでいる。また、市教育委員会との連携のもと、タブレットパソコンの使用上のルールへの理解啓発、ネットトラブルの未然防止の徹底に努めている。学びを継続するためにも、タブレットを有効活用している。

三 学校の働き方改革の推進

本市では、働き方改革対策として、長期休業期間での学校閉庁日の設定、五時間授業期間の設定により、年休取得の促進、超過在校時間等の縮減に取り組んでいる。また、今年度から公務運営システムが導入され、業務の効率化が図られている。今後も市教育委員会と連携し、働き方改革の充実に努めていく。

コロナ禍にあつて、感染防止

の徹底と、学びの保障の両立のため、市教育委員会を中心に、市内小中学校が連携し取り組んでいる。その上で、本市の教育指針「夢を育む 明日が待たれる魅力ある学校づくり」の達成を目指し、子供たち一人一人が「夢」を育み、未来を拓いていくような、学校経営の充実に取り組んでいきたい。

東 県

神栖市教育委員会との連携

神栖・波崎三中
郡司 一彦

神栖市校長会は、小学校十四校、中学校八校の計二十二校で構成されている。学校長会は年度始・年度末と毎月一回の定例の校長会議を開催し、教育課題解決のための研修会や協議、各校の取組についての情報交換等を行っている。また、市教育長と教育指導課長を始めとした各担当課長が毎回同席し、講話や指導・助言をいただくとともに次のような市の教育施策や事業の

確認及び各種の情報を提供いただき、各校の学校経営が円滑に推進できるよう連携し、神栖市教育の充実にための取組を進めている。

一 学力向上推進事業

本市では、市費負担教職員(五名)及び学習指導補助員(三十五名)や学習指導補助教員(十一名)の配置により、少人数学級編成やティームティーチングなど、一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導を行うことで、基礎的・基本的な学力の定着を図るようになっている。また、図書館指導補助員(二名)による読書活動の充実、英語力の向上を図るためのALTの全校配置、ブリティッシュヒルズでの宿泊研修及び民間外部検定試験GTECの実施、そして、本市の教育方針の中核であるキャリア教育等の研修会を実施し、学習指導法の工夫改善に努めながら神栖市授業スタイルの自校化、自分化を推進している。

二 登校支援事業

登校支援相談員(九名)の配置により、登校支援を図るとともに不登校の未然防止に役立っている。また、中学校への心の教室相談員(八名)の配置により、生徒の心の悩みやストレスの解消を図れるようにしている。

三 情報教育推進事業

コンピュータ教育指導員(八

名)の各小学校への配置により、教員の指導力の向上と児童のコンピュータ活用能力・プログラミング的思考の育成を図っている。今年度の神栖市の学校教育推進のキーワードは、CHILDREN FIRST & CHANGE & CHALLENGE(子供ファースト、変化への対応とあくなき挑戦)である。喫緊の課題である働き方改革や部活動改革、そして、コロナ対策等についても、必要に応じ臨時校長会等を開催し、互いの意見や思いを重ね合わせることで、市教委と校長会が同一歩調で推進していく体制が整備できている。

編集後記

皆様のお陰をもちまして、令和三年度の広報誌を無事に発行することができました。今年度はGIGAスクール構想や働き方改革の推進など、多くの課題をコロナ禍の中で推進してきた一年間だったと思います。そんな中、執筆者の皆様から貴重な情報をご提供いただき、皆様にお届けすることができました。ご多用の中、原稿をお寄せくださった皆様にご感謝申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。(橋本)